



朝顔に

つるべ取られて もらひ水

江戸時代の俳人、加賀千代女（よ）の一句です。夏の朝の情景が見事に映し出されています。井戸の水をくもようとすると、つるべおけを伝ってアサガオのつるが伸びている、そんな時代がありました。幼い頃、母や姉が早朝、近くの井戸に水くみに行っていた頃を懐かしく思い出しています。当時、その水を仏壇に供えるのが私の朝の仕事でした。

江戸時代、アサガオは人々に人気のある花で、特に珍しい色や形、葉が好まれていたようです。命短い花の中に、アサガオは短命ゆえに愛されてきた花でもあります。一朝に生まれ一夕にしおれるアサガオの、はかなくもみずみずしい命に、それぞれの人生を重ねていたのかもしれない。さて、夏休みの自由研究としてアサガオの観察日記をつけたことがあります。垣根を伝う朝顔の上へ上へとつるを伸ばす成長の足跡に、遠い夏の記憶がよみがえってきます。

朝顔の種は中国で古くから下剤として用いられ、わが国にも薬草として平安時代にやってきました。種は今でも漢方薬として利用されていますが、毎朝咲く、中でも青紫の花は立秋をすぎても咲き誇り、なお一服の清涼剤となっています。

家周りのフェンス一面にアサガオをからませたお宅があります。長く巻き付いたつる植物が作り出す緑と青紫の点描は、心和む涼しげな空間となっています。

アサガオをはじめ、つる植物を使って涼を呼ぶ「緑のカーテン」が広がりを見せています。冷房費節減に庁舎をゴ1ヤード覆った事業所や校舎2階まで張ったネットに大きな葉が茂るヘチマがからまった学校もあります。

ある大学の先生が小学校で実施した調査によると、緑のカーテンの有無で、閉め切った教室内の温度差は最大4度。体感温度の差は最大6度にも

なったとのことでした。

日差しや熱を遮るばかりではなく、我々が汗をかくのと同じ働きもするそうです。根から吸い上げた水分が葉から蒸発する際に周りの熱を奪う蒸散作用があり、ちよつとした「緑の滝」であるとのことでした。エアコンの使用が抑えられれば立派な省エネ・節約策となります。植物を育てることは温暖化を促す二酸化炭素を減らすお手伝いにもなります。

夏休み、アサガオとラジオ体操は懐かしい情景の一つです。8月、親子連れの旅姿をよく見かけます。よちよち歩きの可愛さも面白さも、それがわが子であれば、なおさらのことです。世の親心の多くはこれだと思うのですが、一方で児童虐待のニュースが後を絶ちません。子どもにとって、事故のない楽しい夏休みであって欲しいとアサガオを眺めながら願うのは私ばかりではありません。



指宿市長
豊留悦男